

第4期和泊町教育振興基本計画（案）に対する意見及び回答について

各意見書に対する回答は、次のとおりです。

施策に対する意見	意見に対する回答
【意見者】 町内在住者 【ご意見】 「オーガニック給食の推進」を加えてほしい。 食育に関して体は食べたものによって作られる。病気も食べたものによって作られる。 農薬まみれ、添加物まみれの食物を食べれば病気になるのは当然です。 私たち日本人には和食が合います。給食に毎回味噌汁を加えるだけで十分な栄養を補うことができ、児童の良い変化が報告されています。現在和泊町でも無農薬、無化学肥料、自然農で野菜を作る方が多くなっています。 また、放し飼いでの鶏卵を販売されている方もいます。また調味料も手作り塩、味噌等が必須です。 これらの食材を給食に取り入れてはいかがでしょうか？ <u>地産地消にもつながり農家を応援することにもつながります。</u> 第4回オーガニック学校給食フォーラムでは実際の現場での取り組みや園児・児童の変化（落ち着く、病気の改善）が報告されました。 鹿児島県では、南さつま市など「ありのままお野菜」を参考。 昨年参議院議員のチームが参議院に提出した「ローカルフード法・条例」などもホームページがありますので参考。	【関連施策】 和泊町教育振興基本計画（案）P5 ① お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 7 食育の推進 (4) 郷土に学ぶ食農教育の推進 【回答】 「オーガニック給食の推進」の要望ではありますが、農業担当部署と連携しながら、地元の有機農産物を活用し地産地消の推進してまいります。 (5) 有機農産物を活用した地産地消の推進 【参考】 第6次和泊町総合振興計画のみへでいろプロジェクトにおいても地産地消を推進しています。 また、県教育振興基本計画の取組として、「安心・安全な食材の使用や地場産物の積極的な活用を進めるため、関係機関と連携を図るとともに、引き続き、地域における生産者や食に関する知識・経験を有する人材の活用を推進する」と掲載しています。

施策に対する意見	意見に対する回答
【意見者】 町内在住者 【ご意見】 和泊町内での小中学校の数は1小学校、1中学校で充分ではないでしょうか？ 小学校の場合1学年の子供達が進級するたびに学年の半分が入れ変わる2クラス制として、6年間に様々な人格との交わりが経験できる事が素晴らしい事ではないでしょうか。 さらに10年くらい先には、大きな変化が起きなかった場合では、小・中学生の数が300名を切る状況が予想されます。そういう意味での居場所作りも考えていかないといけません。そうすると 中学校メイン1校 サブ1校 小学校メイン1校 サブ1校の4校体制か、 中学校 1校 小学校 1校 小中合同 1校 の3校体制になると思います。 最後に、令和6年度の議会報告会においてある議員の方が、奄美大島やその他の離島では児童、生徒が数名の所もあり、和泊町の学校はよい状況のような認識を語られていましたが、恐ろしい事だと思いました。 これからの地域の子供達にそういう状況を「強いる」という予言をしているのでしょうか？ 職員数名、児童1名のような学校で子供達に何を学んで欲しいのでしょうか？ もちろん、現状そういう状況で頑張っている学校や地域を非難するものではない事は確認しているつもりですが！！ だから皆で話し合いを始めましょうよ。「今から」「今だから」よろしく願いいたします。 (※長文のため要約して掲載)	【関連先】 和泊町教育振興基本計画（案）P8 ③ 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 6 小規模校教育の振興 (4) 学校規模適正化の協議・推進 【回答】 現在、学校の統廃合についてのご意見も伺っています。 教育委員会としましては、令和7年度から和泊町立中学校のあり方検討委員会を開催し、町民から意見聴取しながら、まずは中学校のあり方について協議してまいります。 ご意見の中のメイン1校、サブ1校という考え方も、子どもたちにとっての居場所の確保という面で考えると、現実的な御意見であると捉えます。また、少人数で学べることのメリットとデメリットの両面から考えることも肝要と思います。

施策に対する意見	意見に対する回答
【意見者】 町内在住者 【ご意見】 将来的には、和泊町に一つの義務教育学校（小中一体型）が適正規模ではないでしょうか。そのためには、なるべく早く中学校を一つにして（できるところは小学校も）予算を節約し、その時に備えるのがよいのではないかと思います。 ②3(1)、③6(2)(3)(4) との関連 もう一つの意見ですが、「大分県玖珠町立くす若草小中学校（学びの多様化学校）令和6年4月開校」のような、学校に通いづらさを感じる児童生徒が安心して通えるための特別な教育課程を設ける公立義務教育学校（小中一貫校）を考えてもよいのではないかと思います。 ①2(1)(2)(3)(4)、②2(4)、③6(1)(2)(3) との関連 いずれの場合も、防災の観点から、海から離れた場所を想定した方がよいのではないかと思います。 ③4 との関連	【関連先】 和泊町教育振興基本計画（案）P6, P8 ② 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 3 キャリア教育の充実 (1) 小・中学校9年間で踏まえた夢を育む進路指導・キャリア教育の推進 ③ 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 6 小規模校教育の振興 (4) 学校規模適正化の協議・推進 【回答】 令和7年2月末現在での児童生徒見込数は、小学校334名、中学校171名となっています。 公立の「学びの多様化学校」については検討しておりませんが、集団生活に適應することへのつらさを感じる子どもたちのための支援センターのような施設の必要性は高まっているように思います。 学校を一つにすることは、子どもたちの居場所の確保や学校施設の問題などの課題もあるように思います。町民の皆様が求める、和泊の未来の学校像を調査する必要性が高まっていると思います。

施策に対する意見	意見に対する回答
【意見者】 町内在住者 【ご意見】 1 県の教育振興計画に沿ったものになっており、よいと思います。以下は1つの意見として述べさせていただきます。 次期指導要領に向けての議論が進んでいますが、探究的な学習が今後も求められると考えます。探究的な学習の視点を入れてはどうでしょうか。そうなったときには、総合的な学習の時間の充実が求められます。本町も肝心などを通して郷土学習を推進していますが、単発的な学習になっているように感じます。 与論町のゆんぬ学や屋久島町のESD教育等のような「和泊町学」のようなものを設定し、SDGsと関連させながら町全体で取り組むことで、郷土を愛する心を育めるのではないかと思います。本町はゼロカーボンシティも目指していますので、SDGsの観点からの教育の充実もしていければと考えます。 2 学力向上について様々な考え方がありますが、生活リズムを整えることが、学力向上への第一歩だと考えます。未就学から「早寝・早起き」の習慣を身に付け、睡眠時間を確保することが大切です。 和泊町として「小・中学生のメディア利用の時間について午後9時以降は使用しない」と強く啓発した方が子供たちの健全育成に大きくつながると思います。 3 生徒指導、人権教育、特別支援教育に関わることですが、偏見をなくし、すべての児童生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう、地域、保護者向けの講演会等を年1回実施できるといいと思います。 4 タイの学校との交流等、児童生徒が世界へ視野を広げられるような取組を町として実施できると良いと思います。 5 沖永良部島には、様々な分野の専門家がいらっしゃいます。そのような方を町の非常勤講師として派遣するシステムがあったらいいなと思います。（歌唱指導、性に関する教育等々）	【関連先】 和泊町教育振興基本計画（案）P4, 6, P8 ② 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 5 社会の変化に対応した教育の推進 ④ 地域全体でこどもを守り育てる環境づくりに推進 1 地域を支える次世代の人づくり 3 家庭教育支援の充実 【回答】 1について こどもたちが主体的に考え、問題を解決する力を養うための探究的な学びは、こどもたちの非認知能力の育成の面からみても、重要な要素だと考えます。総合的な学習の時間を活用し、こどもたちが主体的に学ぶことができるテーマを他市町村を参考にしながら考えていきたいと思っています。 2について こどもたちの健やかな成長には規則正しい生活リズムは欠かせないものです。また、こどもたちや家庭が自律的に取り組む姿勢やルールメイキングも大切だと考えます。PTAや生指連とも連携して家庭教育力の向上に努めていきたいと思っています。 3について こどもや先生方だけでなく、広く保護者や町民を対象にした教育に関する研修会については、教育の町にふさわしい取組だと思います。具体的な実施方法については今後考えていきたいと思っています。 4について 世界に視野を広げるための取組を検討してまいります。 5について 地域学校協働活動の一環として地域人材の活用を計画しているところです。

施策に対する意見	
【意見者】 町内在住者 【ご意見】 旧態依然とした教育を引き継いでいくのではなく、現代の考え方に即した教育に進化してほしい。 年配の保育士には、もう少し現在の教育の流れを研修等で勉強してきてほしい。3歳の子供の1年と、30年近く勤務している保育士の1年は全然違うという自覚がない。前年踏襲の内容で創意工夫もない保育をしているのは、子供を安心して預けることができない。 『何歳だから昼寝しろ』とか、掛け算は2年生になってから、それは何年生にならないとなど、歳で区切るのではなく個々の能力に合わせた教育が行える環境にしてほしい。 大熊町にある『学びの舎ゆめの森』などすでに先行して学校改革を行っているところもある。 体育の授業でサッカーはおろか、ドッジボールもできない人数になっている現状はどうするのでしょうか？ 教員も中学の専門科目教員が配置できていない現実には子供達の教育機会の公平性を棄損しています。 将来の小学校1年生が0になる可能性も見えてきている現状をどう考えているのか、早急に対応しなければいけない問題なのに具体案が見えません。 発電していない風車や特定の人しか使っていない施設に数千万円もかけているのに、教材の購入に対する予算やプールのない学校などを放置する体制はどこを見て予算編成しているのでしょうか？ 少子化、保育士、教員不足対策として、島内6こども園、9小学校4中学校、1高校を統合し一貫校を設立することを検討してはどうか？ 辺地離島の新たな取り組みとして、県と知名町合同で校舎や施設建する。その費用の補助事業を国に新設してもらおう。その際交流施設を理念にした設計にしま羅うことで、アリーナ問題も解決する。 少子化により現存の園・学校を維持することは非常に不効率であり、教員数の削減にもつながる。ただし、統配合となると廃校の地域のOBOG保護の理解を得るにはかなりの時間と労力が必要になる。すべてがなくなり、新しい学校・取り組みを行うことで、未来志向の説得ができる。	【関連先】 和泊町教育振興基本計画（案）P6, P8 ② 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 1 「確かな学力」の定着 ③ 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 6 小規模校教育の振興 (4) 学校規模適正化の協議・推進 【回答】 少人数の教育環境にもメリットがあります。個々の能力や特性に合わせた教育など、自由度の幅が広がることもその1つだと考えます。 大きな集団の中で個性を発揮しづらい子や生きづらさを感じる子どもたちの居場所も配慮しながら、広く町民の意見を聞いて、子どもたちの学びの環境整備について考えてまいります。